

表14. 各種情報ごとの希望する入手方法(複数回答)、取り扱い品目数別(一般販売業)

	取り扱い品目数(一般販売業)											
	50 品目 未満 n=13		50 以上 99 n=8		100 以上 499 n=42		500 以上 999 n=32		1000 以上 n=22		合計 n=117	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
禁忌情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	2	(25.0)	10	(23.8)	8	(25.0)	10	(45.5)	32	(27.4)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(3.1)	0	(0.0)	1	(0.9)
ファックス	1	(7.7)	1	(12.5)	8	(19.0)	5	(15.6)	4	(18.2)	19	(16.2)
書籍	1	(7.7)	0	(0.0)	10	(23.8)	5	(15.6)	6	(27.3)	22	(18.8)
MR や MS の訪問	2	(15.4)	0	(0.0)	7	(16.7)	6	(18.8)	5	(22.7)	20	(17.1)
メーカーの HP	2	(15.4)	1	(12.5)	7	(16.7)	6	(18.8)	2	(9.1)	18	(15.4)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	13	(31.0)	6	(18.8)	5	(22.7)	28	(23.9)
臨床検査値への影響情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	3	(37.5)	8	(19.0)	8	(25.0)	6	(27.3)	23	(19.7)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(6.8)
ファックス	1	(7.7)	0	(0.0)	4	(9.5)	4	(12.5)	3	(13.6)	12	(10.3)
書籍	1	(7.7)	0	(0.0)	4	(9.5)	4	(12.5)	7	(31.8)	25	(21.4)
MR や MS の訪問	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(19.0)	5	(15.6)	3	(13.6)	26	(22.2)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	7	(16.7)	4	(12.5)	1	(4.5)	39	(33.3)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	12	(28.6)	8	(25.0)	5	(22.7)	49	(41.9)
添付文書記載事項の根拠情報の希望入手方法												
郵送	1	(7.7)	3	(37.5)	9	(21.4)	6	(18.8)	7	(31.8)	24	(20.5)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	6	(5.1)
ファックス	1	(7.7)	0	(0.0)	4	(9.5)	2	(6.3)	3	(13.6)	10	(8.5)
書籍	1	(7.7)	0	(0.0)	5	(11.9)	5	(15.6)	5	(22.7)	24	(20.5)
MR や MS の訪問	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(19.0)	4	(12.5)	2	(9.1)	27	(23.1)
メーカーの HP	2	(15.4)	1	(12.5)	7	(16.7)	4	(12.5)	2	(9.1)	42	(35.9)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	11	(26.2)	8	(25.0)	5	(22.7)	48	(41.0)
慎重投与情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	3	(37.5)	13	(31.0)	7	(21.9)	9	(40.9)	34	(29.1)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	11	(9.4)
ファックス	1	(7.7)	0	(0.0)	8	(19.0)	7	(21.9)	4	(18.2)	18	(15.4)
書籍	1	(7.7)	0	(0.0)	7	(16.7)	7	(21.9)	5	(22.7)	23	(19.7)
MR や MS の訪問	2	(15.4)	0	(0.0)	5	(11.9)	6	(18.8)	5	(22.7)	35	(29.9)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	6	(14.3)	6	(18.8)	2	(9.1)	45	(38.5)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	14	(33.3)	7	(21.9)	5	(22.7)	46	(39.3)
医療用との違いに関する情報の希望入手方法												
郵送	1	(7.7)	2	(25.0)	10	(23.8)	6	(18.8)	6	(27.3)	25	(21.4)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(3.1)	0	(0.0)	11	(9.4)
ファックス	1	(7.7)	1	(12.5)	5	(11.9)	4	(12.5)	3	(13.6)	9	(7.7)
書籍	0	(0.0)	0	(0.0)	6	(14.3)	5	(15.6)	5	(22.7)	29	(24.8)
MR や MS の訪問	1	(7.7)	0	(0.0)	6	(14.3)	7	(21.9)	5	(22.7)	35	(29.9)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	7	(16.7)	5	(15.6)	2	(9.1)	40	(34.2)
専用の情報提供 HP	3	(23.1)	2	(25.0)	14	(33.3)	6	(18.8)	5	(22.7)	42	(35.9)
相互作用情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	3	(37.5)	14	(33.3)	5	(15.6)	7	(31.8)	32	(27.4)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	9	(7.7)
ファックス	1	(7.7)	0	(0.0)	6	(14.3)	6	(18.8)	3	(13.6)	14	(12.0)
書籍	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(16.7)	6	(18.8)	5	(22.7)	28	(23.9)
MR や MS の訪問	2	(15.4)	0	(0.0)	6	(14.3)	5	(15.6)	2	(9.1)	39	(33.3)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	6	(14.3)	7	(21.9)	2	(9.1)	45	(38.5)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	13	(31.0)	6	(18.8)	7	(31.8)	47	(40.2)

表14(つづき). 各種情報ごとの希望する入手方法(複数回答)、取り扱い品目数別(一般販売業)

	取り扱い品目数(一般販売業)										合計 n=117	
	50品未満 n=13		50~99品 n=8		100~499 n=42		500~999 n=32		1000以上 n=22			
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%		
中毒情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	2	(25.0)	12	(28.6)	7	(21.9)	5	(22.7)	28	(23.9)
電話	1	(7.7)	0	(0.0)	1	(2.4)	2	(6.3)	0	(0.0)	14	(12.0)
ファックス	1	(7.7)	1	(12.5)	9	(21.4)	7	(21.9)	3	(13.6)	14	(12.0)
書籍	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(9.5)	5	(15.6)	6	(27.3)	21	(17.9)
MR や MS の訪問	2	(15.4)	0	(0.0)	5	(11.9)	3	(9.4)	1	(4.5)	35	(29.9)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	7	(16.7)	6	(18.8)	1	(4.5)	40	(34.2)
専用の情報提供 HP	1	(7.7)	2	(25.0)	13	(31.0)	7	(21.9)	5	(22.7)	49	(41.9)
副作用情報の希望入手方法												
郵送	1	(7.7)	3	(37.5)	16	(38.1)	8	(25.0)	8	(36.4)	35	(29.9)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(4.8)	2	(6.3)	0	(0.0)	11	(9.4)
ファックス	1	(7.7)	0	(0.0)	8	(19.0)	7	(21.9)	4	(18.2)	16	(13.7)
書籍	2	(15.4)	0	(0.0)	8	(19.0)	7	(21.9)	5	(22.7)	30	(25.6)
MR や MS の訪問	1	(7.7)	0	(0.0)	7	(16.7)	6	(18.8)	5	(22.7)	44	(37.6)
メーカーの HP	2	(15.4)	1	(12.5)	6	(14.3)	6	(18.8)	3	(13.6)	50	(42.7)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	15	(35.7)	7	(21.9)	6	(27.3)	45	(38.5)
類似薬との違いに関する情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	2	(25.0)	10	(23.8)	5	(15.6)	6	(27.3)	19	(16.2)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(3.1)	0	(0.0)	6	(5.1)
ファックス	1	(7.7)	1	(12.5)	7	(16.7)	5	(15.6)	3	(13.6)	10	(8.5)
書籍	1	(7.7)	0	(0.0)	9	(21.4)	5	(15.6)	5	(22.7)	29	(24.8)
MR や MS の訪問	3	(23.1)	0	(0.0)	8	(19.0)	8	(25.0)	5	(22.7)	32	(27.4)
メーカーの HP	2	(15.4)	1	(12.5)	7	(16.7)	5	(15.6)	1	(4.5)	38	(32.5)
専用の情報提供 HP	3	(23.1)	2	(25.0)	12	(28.6)	6	(18.8)	5	(22.7)	40	(34.2)
アルコール含有薬情報の希望入手方法												
郵送	1	(7.7)	3	(37.5)	11	(26.2)	6	(18.8)	6	(27.3)	22	(18.8)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(6.0)
ファックス	1	(7.7)	0	(0.0)	4	(9.5)	4	(12.5)	3	(13.6)	11	(9.4)
書籍	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(11.9)	5	(15.6)	7	(31.8)	30	(25.6)
MR や MS の訪問	1	(7.7)	0	(0.0)	7	(16.7)	6	(18.8)	1	(4.5)	25	(21.4)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	8	(19.0)	5	(15.6)	1	(4.5)	38	(32.5)
専用の情報提供 HP	2	(15.4)	2	(25.0)	13	(31.0)	6	(18.8)	5	(22.7)	47	(40.2)
アンチドレッシングに関する情報の希望入手方法												
郵送	2	(15.4)	2	(25.0)	9	(21.4)	6	(18.8)	6	(27.3)	21	(17.9)
電話	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(6.0)
ファックス	1	(7.7)	1	(12.5)	4	(9.5)	4	(12.5)	3	(13.6)	10	(8.5)
書籍	1	(7.7)	0	(0.0)	5	(11.9)	4	(12.5)	7	(31.8)	25	(21.4)
MR や MS の訪問	1	(7.7)	0	(0.0)	6	(14.3)	4	(12.5)	1	(4.5)	23	(19.7)
メーカーの HP	1	(7.7)	1	(12.5)	8	(19.0)	4	(12.5)	1	(4.5)	35	(29.9)
専用の情報提供 HP	1	(7.7)	2	(25.0)	15	(35.7)	6	(18.8)	5	(22.7)	45	(38.5)

一般用医薬品の薬剤師向け情報の充実に関する 意識調査

平成 21 年度から導入される一般用医薬品の新たな販売制度では、薬剤師は第一類医薬品の販売にあたって書面による情報提供を義務付けられています。そこで、本アンケートでは、薬剤師自身が提供すべき情報を入手できているのか、できていないとすればどのような情報の充実が必要であるかを同定し、新制度の円滑な実施に役立てることを目的としています。

回答は統計的に処理して報告されるので、個別の回答結果が公表されることはありません。個人が特定されるような情報は収集されません。また、調査参加による謝金は支払われません。調査参加への同意は本アンケートの返送をもってなされたものとさせていただきます。調査参加を希望されない方は白紙で提出してくださいようお願いいたします。

お忙しい中申し訳ないですが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力下さいますようよろしくお願い申し上げます。

本アンケートは、厚生労働科学研究医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「一般用医薬品の販売にあたっての情報提供のあり方に関する研究(主任研究者 古澤康秀 明治薬科大学教授 平成 19-21 年)の一環として行われるものです。

この調査に関するお問い合わせ先

金沢大学 医薬保健研究域薬学系 国際保健薬学研究室

本間隆之 腰山豊 木村和子

電話&ファックス：076-264-6286

電話&ファックス：076-234-4402

Email: thomma@p.kanazawa-u.ac.jp

kimurak@p.kanazawa-u.ac.jp

それでは、問1からお願いいたします。

問1. 先生がご所属の店舗の種類をお教えてください。(いずれか1つに○印)

- ① 薬局 ② 一般販売業

問2. 先生がご所属の店舗の所在地を教えてください。(いずれか1つに○印)

- ① 北海道 ② 東北 ③ 関東 ④ 甲信越 ⑤ 北陸
⑥ 東海 ⑦ 近畿 ⑧ 中国 ⑨ 四国 ⑩ 九州

問3. 先生がご所属の店舗の平日午前中の薬剤師数(パート含む)を教えてください。(いずれか1つに○印)

- ① 1人 ② 2人 ③ 3人 ④ 4人 ⑤ 5人以上

問4. 貴薬局・薬店においてお取り扱いのある一般用医薬品のおよその品目数を教えてください。
(いずれか1つに○印)

- ① 一般用医薬品は取り扱っていない ⇒①を選択した方は問5～問8を飛ばして問9へ
② 50品目未満
③ 50品目以上 100品目未満
④ 100品目以上 500品目未満
⑤ 500品目以上 1000品目未満
⑥ 1000品目以上

問5. 一般用医薬品に関して、先生が1週間に受ける相談件数を教えてください。

A) ～C) それぞれについてお答えください。

A) 「商品の選択」に関する相談(一般用医薬品使用の可否に関する内容を含む) (いずれか1つに○印)

- ① ほとんどない ② 1～10件未満 ③ 10～50件未満 ④ 50～100件未満 ⑤ 100件以上

B) 「添付文書記載項目」に関する相談(効能・効果、用法・用量、使用上の注意など) (いずれか1つに○印)

- ① ほとんどない ② 1～10件未満 ③ 10～50件未満 ④ 50～100件未満 ⑤ 100件以上

C) その他の相談 (いずれか1つに○印)

- ① ほとんどない ② 1～10件未満 ③ 10～50件未満 ④ 50～100件未満 ⑤ 100件以上

具体的な相談内容がございましたら以下にご記入ください。

[]

先生の店舗において、利用者からの質問・相談などをうけた経験や薬剤師として疑問に思った経験から、今後充実することが望ましいと思われる情報について、以下の設問にお答えください。

問6. ご所属の店舗で、第一類一般用医薬品を販売する際に、先生が今後さらなる情報の充実が必要と思う一般用医薬品の商品名を別添表の1～78から一つ選び下線部にご記入ください。次にその商品に関して充実が必要と思う情報をa～lの中から選び○印をつけ、その具体的内容を空欄にご記入ください。

解答欄を3つ設けておりますが、不足の場合はお手数ですが、本ページをコピーしていただきますようお願いいたします。

商品名(別添表にある1～78の第一類に分類される商品のうち、いずれか1つを選択して空欄にご記入ください。)

番号: _____ 商品名: _____

次に、上で選択した商品において充実が必要な情報を以下から選択してください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|-----------------|---------------------|--------------------|
| a. 禁忌 | b. 慎重投与に関する情報 | c. 相互作用 |
| d. 副作用 | e. 中毒に関する情報 | f. 類似薬との違い |
| g. 医療用医薬品との相違 | h. アルコール含有医薬品の注意点 | i. アンチ・ドーピングに関する情報 |
| j. 臨床検査結果に及ぼす影響 | k. 添付文書記載事項の根拠となる資料 | l. その他 |

具体的内容:

商品名(別添表にある1～78の第一類に分類される商品のうち、いずれか1つを選択して空欄にご記入ください。)

番号: _____ 商品名: _____

次に、上で選択した商品において充実が必要な情報を以下から選択してください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|-----------------|---------------------|--------------------|
| a. 禁忌 | b. 慎重投与に関する情報 | c. 相互作用 |
| d. 副作用 | e. 中毒に関する情報 | f. 類似薬との違い |
| g. 医療用医薬品との相違 | h. アルコール含有医薬品の注意点 | i. アンチ・ドーピングに関する情報 |
| j. 臨床検査結果に及ぼす影響 | k. 添付文書記載事項の根拠となる資料 | l. その他 |

具体的内容:

商品名(別添表にある1～78の第一類に分類される商品のうち、いずれか1つを選択して空欄にご記入ください。)

番号: _____ 商品名: _____

次に、上で選択した商品において充実が必要な情報を以下から選択してください。(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|-----------------|---------------------|--------------------|
| a. 禁忌 | b. 慎重投与に関する情報 | c. 相互作用 |
| d. 副作用 | e. 中毒に関する情報 | f. 類似薬との違い |
| g. 医療用医薬品との相違 | h. アルコール含有医薬品の注意点 | i. アンチ・ドーピングに関する情報 |
| j. 臨床検査結果に及ぼす影響 | k. 添付文書記載事項の根拠となる資料 | l. その他 |

具体的内容:

問7. 「問6」でお答えになった「充実が必要な情報や資料」をどのような方法で入手するのが良いとお考えですか。各情報ごとに以下の選択肢よりお選びいただき、数字をご記入下さい。

(あてはまるものいくつでも)

- 〔 選択肢 ① 郵送 ② 電話 ③ ファックス ④ 書籍 ⑤ MRまたはMSの訪問
⑥ 各メーカーのインターネットサイト ⑦ 専用の情報提供サイト(医薬品医療機器総合機構など) 〕

- ・ 記入例 [④, ⑦]
(書籍、専用サイトでの情報提供が望ましいと考える場合)
- ・ 禁忌 []
- ・ 慎重投与に関する情報 []
- ・ 相互作用 []
- ・ 副作用 []
- ・ 中毒に関する情報 []
- ・ 類似薬との違い []
- ・ 医療用医薬品との相違 []
- ・ アルコール含有医薬品の注意点 []
- ・ アンチ・ドーピングに関する情報 []
- ・ 臨床検査結果に及ぼす影響 []
- ・ 添付文書記載事項の根拠となる資料 []

問8. 一般用医薬品の情報提供に関して、ご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にご記載ください。

[]

問9. 最後に、失礼ですがご回答を頂いた先生に関して教えて下さい。(いずれか1つに○印)

・先生の年齢を教えてください。

- ① 20歳代 ② 30歳代 ③ 40歳代 ④ 50歳代 ⑤ 60歳以上

・先生の一般用医薬品の販売経験年数を教えてください。(いずれか1つに○印)

- ① 販売経験なし ② 1年未満 ③ 1年以上3年未満 ④ 3年以上5年未満 ⑤ 5年以上

・先生の勤務形態を教えてください。(いずれか1つに○印)

- ① 常勤 ② 非常勤

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。
お手数ですが同封の封筒にてご返送ください。

第一類医薬品 一覧

2008年8月現在

番号	商品名	番号	商品名
1	ハイガード	41	アシノンZ
2	パニオンコーワ錠	42	ガストリック10
3	強カアスメトン	43	ベッセンH2
4	セルペロイシン錠	44	ガストック10
5	パブロン鼻炎カプセルZ	45	ガスター10〈散〉
6	パブロン点鼻Z	46	ガスター10 S錠
7	オムニードケトプロフェンパップ	47	ガスター10
8	パンシロンH2ベスト	48	リアップ
9	アルサメック錠	49	リアップレディ
10	アルサメック細粒	50	リアッププラス
11	マヤ金蛇精(カプセル)	51	ガラナピン
12	ハンピロン	52	(空欄)
13	アネトンせき止め顆粒	53	ハンピロン
14	マイトラベル	54	ストルピンMカプセル
15	ミルクコデ錠	55	ガラナボーン
16	センバア内服液	56	大正胃腸薬Z
17	セイブ内服液	57	アパロンZ
18	スヨロミン内服液B	58	三共Z胃腸薬
19	シック液S	59	ゼスパート軟膏
20	こどもセンバア液	60	ゼスパートクリーム
21	ダンテルモンMバスター	61	ゼスパート液
22	マイクロゲン・パスタ	62	ウィンダム軟膏
23	ペレウス	63	ウィンダムクリーム
24	ハツモール・軟膏(体毛用)	64	ウィンダム液
25	延寿回生	65	アルタットA
26	オットローヤル	66	イノセアワンブロック
27	活力・M	67	メンソレータムフレディCC錠錠
28	金蛇精(糖衣錠)	68	パブロンエースAX錠
29	強カラール	69	パブロンエースAX微粒
30	強カパロネス	70	エスタックイブファイン
31	外用ホルモン塗布剤オットピン	71	ザジテンAL点眼薬
32	(空欄)	72	アイリスアレスト
33	ハヤグロン	73	アクチピア軟膏
34	プリズマホルモン精	74	ヘルベシア軟膏
35	プリズマホルモン錠	75	トランシーノ
36	トノス	76	シガノンCQ1/CQ2
37	グローミン	77	ニコチネルパッチ10/20
38	オノック	78	ニコレットパッチ1/2/3
39	オットピン-S	79	レディガードコーワ
40	アフタッチA		以上79品目

一般用医薬品の添付文書用語に関する理解度調査（2） ～効能又は効果の用語に関する検討～

慶應義塾大学薬学部

医薬品情報学講座

望月真弓

はじめに

平成19年度厚生労働科学研究古澤班報告¹⁾において、一般用医薬品の「効能又は効果」の用語（以下、効能効果用語）に関する生活者の理解度を把握するためアンケート調査を行い、多くの用語が正しく理解されておらず、適正なセルフメディケーションを実施する上で障害となっている可能性があることを報告した。併せて、効能効果用語の理解度を改善するための表現方法を検討した結果、「ルビあり」、「かな用語」、「カッコ付き用語」とすることでの理解度の変化は、「ルビ」をつけた場合、理解度が向上する場合と低下する場合があります。低下する用語の方がやや多いことがわかった。一方、ルビなし・ありに関わらず、カッコ内への意味の記載は用語の理解度を改善させることも判明した。

そこで今回、添付文書における効能・効果用語の生活者の理解度を向上するため、本研究では「カッコ付き用語」集を作成することとした。

目的

一般用医薬品の添付文書における効能効果用語の生活者の理解度を向上するため、平易な表現への変更とカッコ付き用語の作成を行う。さらに、平易な表現への変更とカッコ付き用語の有用性を調査する。

方法

1. 平易な表現およびカッコ付き用語集の作成

1) 対象用語

対象用語は、平成19年度に報告した258語のうち理解度が80%未満の用語200語とした。各薬効群別の調査用語数の内訳を表1に示す。

2) 平易な表現の検索と用語集の作成

生活者向けの用語説明を目的とすることから、国語辞典、医学領域の辞典、インターネットの3分野をカバーする合計5種類の辞書データベースを用いて用語の意味を検索した。国語辞典としては広辞苑 第五版²⁾と日本語大事典 第二版³⁾の2種類を、医学領域の辞典としては看護学学習事典 第二版⁴⁾と医学大辞典 十八版⁵⁾の2種類を、そしてインターネットでの検索で生活者がよく利用すると考えられる検索サイトとして「Yahoo!」の「ヘルスケアサイト 家庭の医学」⁶⁾、以上の5種類から医学専門用語集・病名検索によって検索した。採用辞書の詳細を表2に示す。

表 1 各薬効群における調査用語数

薬効群	調査用語数
解熱鎮痛薬	5
かぜ薬	6
鎮咳去痰薬	6
耳鼻科用薬	5
胃腸薬	14
目薬	6
便秘薬	2
痔疾用薬	6
外用鎮痛・消炎薬	6
皮膚用薬	43
歯科口腔用薬	10
眠気防止薬	4
鎮静薬	4
発毛・養毛薬	5
ビタミン・カルシウム製剤	21
女性用保健薬	10
漢方薬・生薬製剤	42
その他	5

表 2 使用辞書一覧

辞書名	版	収載用語数	発行年	出版社
広辞苑	五版	23 万語	1998	岩波書店
日本語大辞典	二版	20 万語+英語 12 万語	1995	講談社
看護学学習辞典	二版	8000 語	2002	学研
医学大辞典	十八版	3 万語	1998	南山堂

調査用語を5つの辞書データベースを用いて検索した際に、意味の記載がない場合は用語をさらに分解し、再度検索した。また、記載内容が用語の同義語・類似語への単純な読み替えの記述のみであった場合は、さらにその意味について調査した。インターネットでの検索は2008年7月8日現在のものである。説明文の採択は、医学大辞典、看護学学習辞典、広辞苑・日本語大辞典の順とし、ヘルスケアサイトは補完的に使用した。

採択された辞書からの説明文をもとに平易な表現による用語集を作成し、これらについて専門家（医師1名、薬剤師2名、大学教員1名、製薬企業消費者対応窓口担当者1名）により精査を受けた。なお、説明文はあまり長文にならないよう15文字以内を目標に作成した。

2. 平易な表現とカッコ付き用語の理解度調査

1) 調査対象

18歳以上の男女とし、その他は問わない。

2) 対象用語

全調査用語258用語のうち、平成19年度調査¹⁾において理解度60%以下の用語を理解度調査の対象とした。なお、信頼性のある平易な表現の説明文を作成できなかった用語（7用語）は除外した。

以上の条件を満たすオリジナル用語（以下、カッコなし用語）は128用語であり、これに対応するカッコ付きで平易な説明を加えた用語128用語、またカッコ内の平易な説明が1単語であるもの20用語（以下、カッコ内用語）をカッコから取り出してオリジナル用語に加え、全276用語について調査した。

3) 調査方法

自記式アンケートとし、調査項目は、問1. カッコなし用語（オリジナル用語）+カッコ内用語の理解度（合計148用語）、問2. カッコ付き用語の理解度（合計128用語）、問3. 対象者の背景情報について回答を得た。調査用紙をAppendix 3に示す。

4) 解析方法

対象者個人別に意味が分かると回答した用語の割合を「個人の理解度」とし、各用語ごとに意味が分かると回答した者の割合を「各用語の理解度」として評価した。

<個人の理解度、各用語の理解度の算出式>

$$\text{個人の理解度 (\%)} = \frac{\text{分かると回答した用語の数}}{\text{全用語数}} \times 100$$

$$\text{各用語の理解度 (\%)} = \frac{\text{分かると回答した者の数}}{\text{全回答者数}} \times 100$$

カッコなし用語とカッコ付き用語、カッコなし用語とカッコ内用語の個人の理解度の比

較については wilcoxon の符号付き順位検定、用語の理解度については χ^2 を行った。また、個人の理解度と「年齢」については pearson の相関係数を算出した。

これらの統計解析は SPSS for windows 14.0J を用いて解析し、有意水準は 5% とした。

結果

1. 平易な表現による説明文の作成

200 用語のうち説明文が検索された用語は 175 用語であった。残りの 25 用語については用語を分解して検索し意味づけを行った。その結果、最終的に説明文が得られなかった用語は 9 用語となった。これらについて用語別に、昨年度の理解度調査の結果、5 つの辞書の記載状況、発現年齢、原因、部位、症状、説明文を記載し Appendix 1 に示す。

なお、今回の検索で効能効果として記述されている用語のうち、自己治療が適切でないと考えられる用語が 9 用語存在した (表 3)。これらは、外用鎮痛・消炎薬、漢方薬・生薬製剤に存在した。

表 3 自己治療が適切でないと考えられる用語

用語	製品数	薬効群
リウマチ	7	外用鎮痛・消炎薬
ロイマチス	1	
薬物性皮膚炎	1	皮膚用薬
嗜眠	1	女性用保健薬
くすりまけ	1	ビタミン・カルシウム製剤(ドリンク剤を含む)
関節リウマチ	4	
腎臓病	1	漢方薬・生薬製剤
ネフローゼ	1	
肺結核	1	

Appendix 1 を基に専門家に精査を受け、整理した最終版用語集を Appendix 2 に示す。

2. 平易な表現とカッコ付き用語の理解度調査

1) 調査対象者背景

アンケート調査により、18 歳から 83 歳までの男女 (平均年齢 46.1 歳)、合計 106 名から回答が得られた (回収率 100%)。調査対象者の属性を表 4 に示す。男女比はほぼ同数で、年代分布も 40 代男性がやや少ないものの大きな偏りはなかった。

一般用医薬品の購入または使用経験は 98% の人が「ある」と回答し、薬効群では目薬、かぜ薬、貼り薬、栄養ドリンク剤が多かった (図 1)。

2) 個人の理解度

カッコなし用語、カッコ付き用語のそれぞれの個人の理解度 (平均±標準偏差) は 30.7 ± 23.5%、82.7 ± 25.3% で、カッコ付き用語の理解度はカッコなし用語に比べて約 50% 高く、統計学的に有意であった。(P < 0.0001)

表 4 調査対象者の属性

属性		人数	
性別	男性	50	
	女性	56	
年齢	18～20代	男性	8
		女性	10
	30代	男性	12
		女性	10
	40代	男性	6
		女性	10
50代	男性	12	
	女性	16	
60代以上	男性	12	
	女性	10	
職業	会社員・公務員	48	
	自営業	2	
	医療従事者	10	
	主婦	22	
	学生	10	
	無職	8	
	その他	6	
最終学歴	中学卒	0	
	高校卒	18	
	専門学校・短大卒	20	
	大学・大学院卒	62	
	その他	6	
家庭内の医療従事者	あり	36	
	なし	70	
既往歴・現病歴	あり	68	
	なし	38	
健康への関心	あり	74	
	少しあり	32	
	なし	0	
OTCの購入または使用経験	あり	104	
	なし	2	

回答なし1名を除く

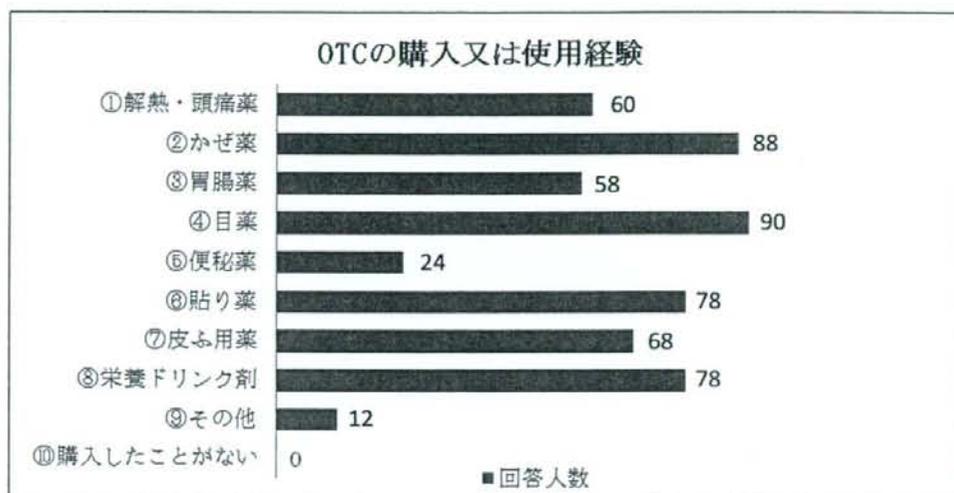


図1. OTC薬の薬効群別の使用経験者数

調査対象者の属性別の個人の理解度を表5に示す。カッコなし用語の理解度（平均±標準偏差）は、年齢では18～20代が最も低く13.6±21.9%、60歳以上が48.1±27.1%と最も高かった。職業別に比較すると、学生が10.8±17.3%と最も低く、医療従事者が63.4±27.1%で最も高かった。一方、カッコ付き用語になると、属性による理解度に大きな差は見られなかった。

3) 各用語の理解度

全調査用語の理解度をAppendix4に示す。

カッコなし用語、カッコ付き用語のそれぞれの用語の理解度（平均±標準偏差）は、30.7±17.2%、82.5±8.2%であり、カッコ付き用語にすることで理解度はカッコなし用語に比べ50%高く統計学的に有意に向上した（ $P < 0.0001$ ）。なお、カッコなし用語に対しカッコの付随を行うことによって、すべての用語の理解度が60%以上に達した。

4) カッコ内用語とカッコ付き用語の理解度

カッコ内用語20用語とそれに対応するカッコ付き用語の理解度の比較を行ったところ（表6）、カッコ内用語の理解度の平均±標準偏差は90.2±8.5%と、カッコ付き用語の82.5±8.2%に比べ高い傾向にあったが、統計学的に有意ではなかった。理解度が完全に一致した用語は2用語、カッコ内用語に比べ、カッコ付き用語で理解度が向上した用語は8用語であり、理解度が低下した用語は12用語であった。

表5 調査対象者の属性と理解度

項目	回答	理解度(%)	
		カッコなし用語	カッコ付き用語
性別	男性	25.1±23.1	81.7±29.7
	女性	36.0±23.6	84.0±21.6
年齢	18～20代	13.6±21.9	73.1±32.2
	30代	26.1±21.9	72.5±35.6
	40代	22.6±15.6	87.5±17.8
	50代	39.5±21.1	92.9±8.8
	60代以上	48.1±27.1	85.8±23.8
職業	会社員・公務員	21.7±17.5	82.8±27.4
	自営業	37.0	89.0
	医療従事者	63.4±27.1	95.5±7.2
	主婦	38.5±16.0	85.6±17.8
	学生	10.8±17.3	61.7±36.8
	無職	46.4±29.2	75.2±28.3
	その他	20.4±6.7	99.6±0.5
最終学歴 [※]	中学卒	-	-
	高校卒	37.6±29.1	72.1±35.9
	専門学校・短大卒	17.0±13.8	77.9±31.7
	大学・大学院卒	33.4±23.2	88.6±17.1
	その他	13.8±17.2	53.9±31.7
家庭内の医療従事者	あり	36.6±28.9	80.4±27.3
	なし	27.6±19.9	83.8±24.5
既往歴・現病歴	あり	32.9±25.4	83.9±22.6
	なし	26.7±19.45	80.4±30.1
健康への関心	あり	33.4±25.4	87.7±20.1
	少しあり	24.4±17.3	71.8±32.7
	なし	-	-
OTCの購入または使用経験	あり	29.4±21.7	82.3±25.4
	なし	97.6	100.0

※回答なしの1名を除外

表6 カッコ内用語とカッコ付き用語の理解度の比較

カッコ内用語	カッコ付き用語	カッコ内 用語	カッコ付き 用語
		%	%
気管支炎	気管支カタル（気管支炎）	86.8	88.7
たん	痰（たん）	94.3	100.0
せき	咳嗽（せき）	98.1	98.1
鼻炎	鼻カタル（鼻炎）	96.2	88.7
げっぶ	おくび（げっぶ）	100.0	86.8
	呑酸（げっぶ）	100.0	94.3
リウマチ	ロイマチス（リウマチ）	79.2	81.1
すりきず	擦過傷（すりきず）	96.2	98.1
にきび	尋常性癬瘡（にきび）	96.2	83.0
きず	創傷（きず）	88.7	98.1
日やけ	日光皮膚炎（日やけ）	94.3	92.5
とびひ	膿痂疹（とびひ）	71.7	75.5
はれ	腫脹（はれ）	83.0	88.7
歯肉炎	歯齦炎（歯肉炎）	92.5	88.7
ひきつけ	驚風（ひきつけ）	79.2	69.8
おりもの	こしけ（おりもの）	79.2	77.4
	帯下（おりもの）	79.2	83.0
胃腸炎	胃腸カタル（胃腸炎）	96.2	88.7
肥満症	肥胖症（肥満症）	84.9	84.9
下痢	醜酔性下痢（下痢）	100.0	83.0
鼻づまり	鼻閉（鼻づまり）	98.1	94.3
ぼうこう炎	膀胱カタル（ぼうこう炎）	90.6	86.8

考察

今回の調査用語 200 用語のうち辞書データベースから説明文が検索された用語は 175 用語であり、さらに分解して意味づけを行った結果、16 用語で説明文が追加され、最終的に辞書データベースから意味づけが行えなかった用語は 9 用語となった。このように 5~10% 程度の用語は、生活者が様々な辞書を調べても用語を正しく理解するための情報が得られない状況にある。このようなことは一般用医薬品の適正使用を推進する上で早急に解決すべき事項と考える。

今回、われわれが説明文を作成できた用語のうち、平成 19 年度の研究でカッコなし用語

の理解度が60%以下のものについて、カッコなし用語とカッコ付き用語の理解度を比較した結果、カッコ付き用語の方がカッコなし用語に比べて平均50%以上改善しており、カッコ付き用語とすることが理解度の向上に有用であることが強く示唆された。一方、カッコ付き用語とカッコから取り出したカッコ内用語の理解度の比較において、若干の不一致が見られた。しかし、その違いはわずかであり、統計学的にも有意ではなかった。このことから、効能効果用語が短い1単語で置き換えられる場合には、カッコ付きの説明を追記せず1単語で置き換えることも不可能ではないと考えられた。

カッコなし用語の理解度は年齢の増加に伴って高くなり、カッコ付きになると年代による顕著な差はなくなった。多くの一般用医薬品の効能効果が承認基準を基にしているため、年齢が進むことで病気の経験が多くなることと併せて古い言葉が継続して使用されていることが影響しているものと推測される。医療用医薬品の効能効果は診断法の進歩や診断名の変更に伴って変わることがあるのに対して、一般用医薬品では医療の進歩の反映が難しい状況にあるとも考えられる。今後は、こうした視点での用語の見直しも必要となろう。

一般用医薬品の効能効果の情報は、生活者がセルフメディケーションを自己決定するための重要な手段の一つである。しかし、今回の研究結果から、一般用医薬品の「効能又は効果」には不相当であると考えられる用語がいくつか見受けられた。「リウマチ」「ロイマチス」「関節リウマチ」が1例である。「日本では、手足の痛む病気を一般にリウマチ・神経痛といいならわしてきた。」と言われている⁷⁾。このことから、理解していると回答した生活者の中には、「リウマチ」を単に手足の痛む病気ととらえている人が含まれている可能性がある。医学的にはリウマチと神経痛は全く別の病気で、学問的には「リウマチ性疾患」と呼ばれており、この中には、俗にいう「リウマチ」(正しくは「関節リウマチ」)、「脊椎関節症」、「血管炎」および「関連疾患」などが含まれている。このように「リウマチ」は俗語としての意味と学問的な意味の2つの側面をもった用語である。今回の調査で、「リウマチ」「ロイマチス」「関節リウマチ」の記載は、外用鎮痛・消炎薬および漢方薬・生薬製剤の2つの薬効群に存在した。これらの効能効果用語にはリウマチの何に対して使用するかの具体的な説明はなく、疾病そのものの治療薬と生活者が受け取る可能性も否定できない。このような誤解を発生させないことは避けなければならないことである。

また、「薬物性皮膚炎」「くすりまけ」という効能効果は、薬の使用に起因すると考えられる副作用の治療を目的とすると考えられる。これらの症状は一般用医薬品によるセルフメディケーションの対象とはすべきでなく、医療機関の受診勧奨の対象と考えるべきものであり、このような効能効果については見直しをしていく必要もあろう。さらに、漢方製剤には、「嗜眠」「腎臓病」「ネフローゼ」「肺結核」もセルフメディケーションの対象としては不適である。

一般用医薬品の添付文書では、効能効果用語以外の項目の記述についても、生活者に理解されにくい表現が存在する。今後はそれらについても理解されやすい記述にする研究が必要と考える。

引用文献

- 1) 平成 19 年度厚生労働科学研究補助金事業報告書 (主任研究者: 古澤康秀)
- 2) 広辞苑 第五版 岩波書店
- 3) 日本語大辞典 第二版 1995
- 4) 看護学学習事典 第二版 2002
- 5) 医学大辞典 南山堂 18版 1998
- 6) Yahoo!ヘルスケア 家庭の医学
(<http://health.yahoo.co.jp/katei/index.html>)
- 7) 橋本 明 関節リウマチQ&A

参考文献

- ・厚生省医薬安全局薬事行政研究会 改正薬事法の逐条解説－医薬品の安全性確保を目指して－ 1998 中央法規出版株式会社
- ・一般用医薬品 添付文書記載要領ガイドブック 2003 一般用医薬品安全対策研究会 薬事日報社
- ・カラー図解 よくわかる改正薬事法 改訂版 2007 新薬事法研究会 薬事日報社
- ・日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 添付文書の用語と解説
- ・コーパスによる難解語・重要語の抽出 －医療用語を例に－
田中牧郎 金愛蘭 桐生りか 近藤明日子 国立国語研究所
- ・「一般向け専門用語」抽出の試み －医療用語を例に－
田中牧郎 金愛蘭 桐生りか 近藤明日子 国立国語研究所

説明文の作成

Appendix 1

解熱鎮痛薬	理解度(%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(症状(どうなるか))	説明文
咽喉痛	84.1								のど	痛む	のどの痛み。
音響外傷性難聴	27.3							大きな音	耳	音の聞こえの低下	大きな音の衝撃によって耳の聞こえが悪くなること。
外傷痛	67.1							外からの力	身体組織	損傷	外からの力により体に受けた傷の痛み。
骨折痛	85.5							外からの力により骨組織の連続性が断たれる(骨折)	骨組織	痛む	骨折の痛み。
耳痛	76.6	●						耳	痛む	耳の痛み。	
神経痛	92.8	●	●		●			神経の走行に沿って	疼痛発作	体の神経にそってずきずきとうずくような痛みが起こる。	
疼痛	51.9		●	●	●	●				ずきんずきんとうずく痛み。	ずきんずきんとうずく痛み。
ねんざ痛	96.1							外力が加わって	関節包、靭帯	軽度の損傷	手や足の関節をくじいた時の痛み。
歯の根の痛み	74.4										

かぜ薬	理解度(%)	医学大辞典	看護辞典	日本語大辞典	広辞苑	Yahoo	特徴的な年齢	原因	部位	症状(どうなるか)	説明文
悪心	26	●	●	●	●			嘔吐に前駆して	咽頭や心窩部	不快感を感じる。	気持ちが悪くはきけを感じる。むかつき。
感冒	69.6	●	●	●	●						かぜ
緩和	64.9			●	●				激しい状態	やわらぐこと	やわらぐこと。

